

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	おり〜ぶ鈎取		公表日		令和8年2月25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての部屋を使用することが出来れば良いがなかなか難しいところもある。</li> <li>利用時の様子や希望に応じて、活動室を使い分けできるよう工夫している。</li> <li>利用者及び利用人数によって部屋を分けている</li> <li>2階があるので、人数を分散させることが出来ている。</li> <li>単純にスペースの関係から見れば、一般の民家を使用しているため、段差等があり事故につながりやすい状況にある。賃貸の関係上、バリアフリー等に向けた速やかな環境改善には、無理があるところから未然防止つながる声掛け等を積極的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用定員に対してのスペースの関係は適切であるが、スタッフ体制によって一度にすべての部屋を使えないことがあり、使用時間や用途に応じた工夫が必要である。</li> </ul>
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>シフト段階で、個別対応や送迎・延長希望に合わせた職員体制をとっている。</li> <li>パート等の補助員も配置している</li> <li>部屋数が多いことによる死角を少なくできるよう、職員の立ち位置の確認をしている。</li> </ul>	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>一軒家をそのまま利用しているので、バリアフリーにはなっていない。</li> <li>古い建物のため、段差は多い。視覚的構造化による工夫の余地はまだあると感じている。そのためには、学びも必要と思っている。</li> <li>手すりやスロープで対応</li> <li>バリアフリーはなされていないが、構造上仕方ない部分がある。</li> <li>一軒家という特性上、段差が多い所があるが、階段の上り下りはスタッフが見守り、サポートを行ったり、段差があることによる注意喚起を日頃行ったりと利用者さんの安全に気を配っている。</li> <li>バリアフリー等については、前述1のとおり</li> <li>バリアフリー化があまりされていない一軒家タイプの事業所のため、その部分において限界がある。段差は多いが、玄関にはスロープを設置している。</li> <li>階段や畳の部屋にあがるための段差があるので、歩行困難な利用者さんは注意が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一軒家（借家）で事業を運営しており、段差が多くバリアフリー化には至っていない。床に滑り止めを敷いたり、階段の上り下りの際にはスタッフが見守りなど人の配置を工夫し安全に過ごせるよう日々対応している。</li> </ul>
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>物が乱雑になっていることがある</li> <li>平時の感染症対策が浸透している。</li> <li>普段から清潔を保てるよう配慮している。</li> </ul>	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>希望や状態に応じた使い方が出来るよう臨機応変に使用している。</li> <li>賑やかな音が気になる利用者さんは個室で過ごせるようお誘いしている。</li> </ul>	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定後の振り返りが出来ずに経過することがあるため、振り返る機会をしっかりと持てるように工夫したい。「業務改善へ参画している」と思える取組みを考えたい。</li> <li>ミーティングをする中で参画できるようにしている。</li> <li>毎日の打合せや職員会議、個別支援計画作成時、強度行動障害計画作成時等で行っている。</li> </ul>	

	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・いただいた意見は広く開示し、スタッフが意識できるようにしたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	・柔軟な姿勢でいられるよう常に意識しているが、相手はどう感じているでしょうか。 ・分からない ・毎日打合せの時間を設けたり、回覧用のノートを作成、記入している。 ・毎日午前、午後の打ち合わせを行い、利用者さんの状況を出来るようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	4	・分からない	第三者評価機関の評価は実施していないが、保護者や関係機関からいただいたご意見は改善に繋がるよう努めたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		・階層別研修以外にも、スキルアップやモチベーションに繋がる研修には、積極的に参加してもらえるように意識している。 ・正規職員やパート向けの研修が年に数回実施されている。 ・外部研修に参加したり、法人内での内部研修も定期的実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		・HUGを使って公開出来ている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		・発達段階や本人保護者の思いを面談や電話・送迎時等に伺い、課題やニーズとして捉え情報提供や支援を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		・管理者、職員間で話をしたうえで取り組んでいる。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		・HUGを導入したことで、記録の際などにも容易に目標を目にすることが出来るようになった。 ・計画目標を把握しているので、概ね計画に沿った支援を行っている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		・仙台市放デイ共通の書式を使用。HUGのシートとの使い分けなどできないか検討の余地はあると感じる。 ・HUGで行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		・関係機関連携等において、不登校状態への支援など個別に必要な状況を踏まえ対応している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		・マンネリにならないよう、一部の人のアイデアに留まらないよう工夫したい。 ・内容を個々で出し合い、その上でチームで話し合っってプログラムの立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・より、領域や目標を意識して立案したい。 ・固定化しないようにしているが、目的があって年に数回行うものもある。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	1	・専門職員配置加算を取得しているが、個別活動として実施に至っていないことが課題。専門職としてどういったことができるか考えたい。	左に同じ
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	・長期休みの情報共有が後手にならないよう意識している。夏休みはケース印刷し共有を試みたが、冬休みは実施していなかった。 ・日々のミーティングで確認を行っている。 ・休校日の打ち合わせはスタッフによって勤務形態が異なることで実施できないが、連絡ノートを活用し情報共有している。	長期休みの情報共有が課題ではあるが、連絡ノートの活動やケース記録の回覧でスタッフ間の連携を図りたい。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎等もあり支援終了後の打ち合わせ等は出来ていない</li> <li>・支援後ミーティングは実施していないが、情報共有事項はノートやケース記録に残すようにしている。HUGになり、ちょっとしたことも記録として残すようになった。</li> <li>・日に一度の打ち合わせで、気になる点の確認をしたり、職員会議やヒヤリハット、虐待かもしれない報告書で、気になる支援について確認していると共に、次はどうすればいいかの相談もしている。</li> <li>・支援終了後には、必ず打合せを行うまでには至っていない。翌日の支援開始前のミーティング時において前日の振り返り等を行っている。</li> <li>・休校日の打ち合わせはスタッフによって勤務形態が異なることで実施できないが、連絡ノートを活用し情報共有している。</li> </ul>	上に同じ
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話モニタリング等も残すようにしている。</li> <li>・ケース記録などに残し、次につながるように話し合いを行っている。</li> <li>・回覧用のノートの作成をしている。長期休みで共有が難しい場合は、ケース記録の印刷、共有を行っている。</li> </ul>	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・変更等があった際には計画書の内容を一部変更等して対応している。</li> </ul>	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出で地域のお店などに出かけることはあるが、交流の機会を持てるとよい。</li> <li>・地域交流の課題への取り組みができていない。どのように、何ができるか検討したい。</li> <li>・調理活動やお買い物学習などを取り入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流の機会を確保するため、活動の中でどのような取り組みが必要か検討していきたい。</li> </ul>
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動選択や自己決定できる取り組みを意識して持ちたい。</li> <li>・意思決定が出来るような場面を作れるようにしている。</li> <li>・利用者さんの好む遊びを提供できるようにしている。</li> </ul>	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児発管のほか、体制が可能であれば担当職員も参加している。</li> <li>・ケース担当や管理者が参加している。</li> <li>・代表の方が参加すると共に、対象となる利用者さんの気になるところについて事前に参加する方以外のスタッフからも情報収集している。</li> </ul>	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携出来ている方もいるが、そうでない方においても事業所としてのつながりがどの程度必要か見極める必要がある。</li> <li>・必要に応じて、教育機関の連携を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や相談支援事業所を通して、各関係機関との情報共有を行っている。今後も必要に応じて直接的、間接的に連携を図っていきたい。</li> </ul>
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と連絡調整がつかず下校時間が分からない時がある</li> <li>・おおむねできているが、下校時間の把握間違いがあるため、常にベターな方法を模索したい。</li> </ul>	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりません。</li> <li>・直接的なやり取りではないが、保護者を通して情報共有できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や相談支援事業所などの機関を通して間接的にはあるが情報共有に努めている。</li> </ul>
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりません。</li> <li>・十分ではないケースもあるため、今年度卒業生においては必要な情報提供が出来るようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や相談支援事業所を通して、移行における情報共有に努めている。</li> </ul>

	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2	・個に応じて対応していると思う。 ・アーチルやなないろにスーパーバイズの機会を適宜お願いしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	2	7	・機会がない。 ・今年度も実施には至っていない。どのように交流機会が持てるかをスタッフ間で検討したい。 ・連携、交流する機会を作ることが出来ず、改善する方法を検討しなければと考えている。	・地域の子どもと関わる機会を設けることができていないため、どのような形で活動できるか検討をしていく。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	6	3		・参加できるよう勤務を調整しているが、他研修と日程が重なったことで参加できないことがあった。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・HUGを導入したことで、日々の連絡帳機能の活用ができるようになった。 ・口頭、HUGで内容を伝えるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		・年2回おり〜ぶ合同茶話会を実施しており、参加者には好評を得ているが、時間の都合などにより参加できない方に向けての情報提供はどのように行えるのか? 検討余地はある。 ・年に2回保護者研修会としての茶話会を実施している。 ・茶話会を開催し、保護に参加して頂いている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・定期面談の他にも要望に応じた面談等を実施している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	3	・きょうだい同士の交流等は行っていない。 ・茶話会を開催している。 ・年に2回保護者研修会としての茶話会を実施している。	・年に2回おり〜ぶ四事業所合同で保護者研修会としての茶話会を実施しているが、きょうだい児の交流の機会を設けることができていないため、どのように実施していけるか検討が必要。 ・法人の家族会からの情報共有や研修参加のご案内を保護者に向けて行っている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	1	・苦情解決制度のフローに沿った対応を行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		・おり〜ぶ通信の発行、HUGにより日々の連絡体制もこまめにできるようになった。 ・HUGでまとめて取り組んでいる。 ・法人ホームページを含むSNSでの広報やおり〜ぶ通信(年2回)の発行をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		・ペーパー資料の取り扱いを常に意識している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	5	・行事等に地域住民を招待する活動は行っていない。 ・地域行事実施には至っていない。実習生の受け入れを行い、2名の学生実習があった。 ・機会は少ないが、地域との交流について、機会がある際は積極的に参加している。 ・地域の方とあいさつするなどの交流はある。	・近隣の方とのあいさつをして交流をしたり、夏祭りに広告を出したりしているが、行事への招待などは行うことはできていない。どのような形で実施できるか検討をしていく。 ・今年度は学生が2名ボランティアとして活動に参加した。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		・避難訓練などを活動内容に取り入れている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		・水害、火災、地震のそれぞれの災害を想定した避難訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		・面談時期に応じて医療情報の確認を行い、漏れがないか共有するようにしてる。その際に、適宜変更の生じた際にはお知らせいただくようアナウンスもしている。 ・てんかん発作のある利用者さんは、個別の対応マニュアルを作成している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	3	・指示書によるアレルギー対応の必要な児童は今のところいない。必アレルギーの状況は把握しておけるようにしたい。 ・指示書は所持していないが、保護者から情報を得て対応している。	・保護者を通してアレルギーに関する情報や対応の共有をしている。今後も必要に応じて対応を行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・安全計画の更新をしていきたい。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1	・避難訓練を行った際や感染症流行期には、避難場所や流行期の過ごし方、感染防止に関する対応など周知している。	・安全対策マニュアル等は策定しているが、保護者に向けた周知などをより丁寧に行っていく必要があるため、方法を検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		・書面に残し、毎月職員会議で内容を確認している。 ・ヒヤリハットの他に虐待かもしれない事案を作成し、職員間で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9				